

## 【会員だより】

母校を巣立った大学一回生が社会の荒波に立ち向かって活躍しています。半年を振り返り、今の心境を素直な気持ちで書いてくれました。お近くの先輩方には卒業生を今後ともよろしくご指導ご鞭撻をお願いいたします。

## 診療放射線技師になって



日本赤十字社和歌山医療センター 小林 弘幸(大学1回生)

私が勤務している日本赤十字社和歌山医療センターは、病床数 845 床の総合病院で、24 時間対応の高度救命救急センターでは一次から三次救急まで対応しています。和歌山は医療過疎といわれており、ここではたくさんの症例に出会う機会があります。設備も整っており、臨床面の勉強をする環境は整っていると感じます。しかし、まだまだ目の前の業務をこなすことに精一杯の毎日を過ごしています。在学時に先生から言われていた、「働きだしてからの方が勉強をしなくてはいけない」という言葉に身をもって感じる毎日です。

私は学生時代に京都医療科学大学の初代学生会会長を二年間務めさせていただきました。会長としての二年間に学校行事の企画運営にチャレンジしてきました。大学になって初めての学生会ということもあり、新しい試みにチャレンジする機会を多く与えていただきました。新しい試みにチャレンジすることはとても大変でしたが、共に汗を流してくれる仲間、私たちを理解し応援して下さる諸先生方や職員の皆さん、後輩を応援して下さいる学友会の先輩方に支えられ、二年間無事務めることができました。学生会の活動を通じて先輩後輩の繋がりも生まれ、とても充実した学生生活をおくることができました。大学4年間での経験は私にとって、とても価値ある大切なものだと思います。そして、後輩たちが私たちの試みを引き継ぎ活動している姿をみると、私も負けてられないと思ひ、力が溢れてきます。今後は、先輩方が私たちの活動を暖かく見守り支えてくださったように、後輩たち活動を楽しみにし、応援していきたいです。

そんな私も大学を卒業し、病院へ入職して半年が過ぎました。現在私の担当は、一般撮影・CT・頭腹部アンギオ・心臓カテーテル検査・救急頭部 MRI(DWI・MRA)です。最初はポジショニングの際の患者さんとの意疎疎通など、ぶつかった壁は数えきれません。失敗をする度に自分が情けなくなり落ち込んだ日も数えきれません。しかし、丁寧に指導し、暖かく見守って下さる先輩方に囲まれ毎日楽しく仕事が出来ています。半年がたった今、まだまだ全ての業務に自信を持ってと言うわけにはいきませんが、少しずつ仕事にも慣れてきました。学生時代に学んだチャレンジすることの大切さを忘れないよう、日々業務に取り組んでいきたいです。



## 診療放射線技師になって

独立行政法人国立病院機構 中国・四国ブロック

東広島医療センター 山本 修平(大学1回生)

私は平成23年3月に京都医療科学大学の第1回生として卒業し、4月から東広島医療センターで勤務しています。当院は一般病棟381床、結核病棟50床、計431床の病床数で、広島中央二次保健医療圏を中心に、地域の救急指定病院と協力して救急輪番(二次救急)に参加し、中核病院・急性期病院の役割を果たしています。放射線科では主に一般撮影、CT、MRI、アンギオ、RIや放射線治療を業務とし、診療放射線技師12名でこれらの業務を行っています。現在新外来棟を建設中であり、新機器も導入予定

です。

2月の国家試験受験から3月末の合格発表ができるまでは不安でいっぱいでしたが、こうして無事に診療放射線技師になれたのも大学の先生や友人、そして両親の支えがあったからです。大変感謝しております。診療放射線技師として働き始めたこの半年は、あっという間に過ぎ去っていましたが、充実としたものでした。診療放射線技師として、スタート地点から一步踏み出した私にとって、社会人として病院で働くなかで、大学時代の病院実習とはまた違う緊張感と責任感そして、充実感を身にしみ感じていました。一般撮影だけでも最初はマニュアルどおりに撮影していただくだけで精一杯で臨機応変なチーム医療、画像調整やポジショニングをすることができず、受動的な仕事をしていました。今はドクターが求める画像や患者さんの負担や不安が少なくすむようにと少しずつ考えるようになり、管電圧やmAs値またはS値を自分の意思で調整したり、言葉使いや接し方など気を遣うようにしています。CTやMRIでも同様に各パラメータを調整して、より診断しやすい画像にするように、能動的に業務していくように心がけています。まだまだ、勉強と経験不足であり、十分な画像、患者サービスを行えているわけではありませんが、日に日に歩を進めて前進していることを半年たってやっと少し感じてきています。

これからも、日々の業務を通じてまた、学会や勉強会に積極的に参加してチーム医療の中の診療放射線技師として知識と技術そして、能力を高めていきたいと思いをします。

## 診療放射線技師として働き始めて思うこと

京都大学医学部附属病院 林 成美(大学1回生)

京都医療科学大学を卒業して早半年、現在、私は京都大学医学部附属病院に勤務し、一般撮影を担当業務としています。

私が京大病院に就職したいと思ったきっかけは学生時代の病院実習でした。京大病院は新たな試みとして「新人教育プログラム」という制度があり、一部門につき最短半年、最長9ヶ月で、一般撮影、CT、MR、アンギオを研修します。このプログラムについて技師長から教えていただいた時、様々なモダリティに触れることができるということにとっても魅力を感じ、現在の病院で働きたいと思うようになりました。また、接遇について教えていただいたことも志望した理由の一つです。例えば、京大病院では患者さんにまず自分の名前を名乗ります。そうすることで、患者さんの名前確認をスムーズに行え、さらにその検査における自分の責任を実感することができるからです。2ヶ月間の病院実習を通して学んだことの中でも、京大病院で教えていただいた「接遇の重要性」は一番心に残りました。

就職後、撮影技術の習得という点では、一般的な撮影法以外にも京大病院特自の撮影法が多くあるため、覚えることがたくさんありまだまだ失敗ばかりです。加えて、技術的なこと以外では、接遇について先輩方から特に丁寧に教えていただいています。予想以上に苦労しています。初対面の人と接するのは得意な方だと自分では思っていたのですが、声の高さ、語尾の調子、言葉遣い、話すスピード、相手に不快感を与えずにいかにか検査に協力してもらうよう伝えるかが、これほど大変なことだとは思いませんでした。また、様々な患者さんがいらっしゃる中で、患者さん一人一人にあわせた対応が必要であることも学びました。しかし、検査後に患者さんから「ありがとう」と言われたり、「名前を覚えておくから、また次回私を撮影してね。」と言われた時は、本当にこの仕事に就いて良かったと実感します。

接遇、検査方法等の業務についてだけでなく、京大病院は最先端の装置、技術がそろっており、放射線技師として技術を向上させるには最高の環境です。これから一般撮影以外のモダリティを早く習得するためにも、まだまだ学ばなければいけないことはたくさんありますが、このような素晴らしい環境に就職させていただいたことに感謝しつつ、日々勉強し、技術を磨いていきたいと思いをします。

## 診療放射線技師になって



松山市民病院 長野 亜衣(大学1回生)

私が勤務している松山市民病院は市の中心に位置する地域密着型の総合病院です。病床数は538床で松山医療圏での二次救急輪番病院にも指定されています。当院の診療放射線技師は23名で内、女性技師は6名です。日常業務としては主に一般撮影、マンモグラフィ、透視撮影、CT、MRI、RI、治療、心臓カテーテル検査、血管造影検査を一週間ごとにローテーションしていきます。

私にとって大学生活は、今となればとてもいい思い出です。学生時代はテストが頻繁にあり、勉強・勉強の日々で挫折しそうになり、自分は本当に診療放射線技師になれるのかと思ったことは何度もありました。しかし友人の頑張っている姿や、分からない所を丁寧に指導して下さる先生方のおかげで何とか乗り越えることが出来ました。いま考えれば、この一つ一つのテストを乗り越え、一緒に頑張る仲間がいたからこそ国家試験に合格できたと思います。診療放射線技師という資格を取ることは私にとって楽なことではありませんでしたが、自分の力を試すいい機会になったと思います。

病院で働き始めてもう半年が過ぎました。技師としての技術はまだまだ毎日が勉強の日々です。働き始めのころは正確にポジショニングをするのが精一杯で、コミュニケーションを取る余裕がありませんでした。しかし、この頃は撮影にもだいぶ慣れたことで患者さんと会話しながらスムーズに検査することができるようになりました。今では撮影内容を確認し、どのような方法で撮影を進めていけば患者さんの動き(方向転換)を少なくできるかを考えながら検査を始めるようにしています。救急の患者さんに対する検査は工夫して撮影しなければならないことが多く、先輩にアドバイスしていただきながら自分のものにできるよう日々努力しています。

当院には尊敬できる先輩がたくさんいらっしゃいます。その先輩方のような技師になれるよう勉強し、経験を積んで成長していこうと思います。

## 放射線技師になって

総合病院 聖隷浜松病院 杉浦 康行(大学1回生)

私が勤務している聖隷浜松病院は、静岡県浜松市にあります。当院は病床数744床で、静岡県西部における中核医療機関のひとつとなっており、救命救急センターをはじめ様々な施設認定を受けている地域医療支援病院です。また放射線部は、画像診断及び放射線治療を担当する部門として、診療放射線技師46名(男性35名、女性11名)、事務職員18名の計64名の組織で運営されています。



昨年の今頃の私は、国家試験に向けて同級生と毎日遅くまで学校に残り、勉強していました。友達に覚えただけの知識を教え、また逆に教えてもらうことが私にとって良い勉強法でした。無事に4年間で卒業し、国家試験に合格することができました。しかし、放射線技師として働き始めて、学生時代に得た知識だけでは全く通用しないことを痛感しました。放射線技師になってからが技師としての勉強の始まりということは聞いていましたが、自分で思っていた以上に自分の知識の薄さに気付き、情けなくなりました。それ以来、業務の中で少しでも分からないことがあれば、メモなどをしておき、すぐに調べるようになりました。学校を卒業して約半年が経過した現在、私の担当業務は、一般撮影・TV撮影・ポータブル・CT・心臓カテーテル検査等です。

最初は、マニュアル通りの撮影も患者様の立場を考えた接遇も、失敗することや戸惑い不安なこ

とがありました。今でも不安な撮影はありますし、親切丁寧な接遇は出来ているのか分かりません。毎日の業務の中で、先輩方の撮影テクニックや接遇の仕方を見て学び、実践して習得しようと今でも心掛けています。しかし、自分自身で考え判断することや自信を持って行える仕事も徐々に増えてきました。今後も初心を忘れることなく、1日も早く放射線技師として1人の戦力になり、患者様・病院・仲間のために動ける技師を目指して頑張りたいと思っています。

## 診療放射線技師になって

宮崎大学医学部附属病院 佐々木 孝嗣(大学1回生)

私が勤務している宮崎大学医学部附属病院は、「良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します」を理念にかかげ、地域の医療機関からの紹介患者さんを中心に、二次医療、三次医療に取り組んでいる、宮崎県の中核的医療機関であります。来年からはドクターヘリによる救急医療を開始しようとしています。私が所属している放射線部は、診療放射線技師28名、看護師8名、受付4名で業務を行っています。



就職してから約半年、私は一般撮影とX線 TV 検査を中心に業務をしています。就職して気付いたことは、撮影時に患者さんにしっかり説明して、きちんとした体位をとってもらうことがとても難しいことを知りました。病院に来る患者さんは、何らかの疾患を持っているためきちんとした体位をとることができません。そのため、患者さん一人一人にあった撮影体位を考え、その時の最高の画像を提供することをいつも考えながら撮影しなければなりません。先輩方のポジショニングを見て、患者さんへの説明の仕方や言葉使い、患者さんへの対応など多くのことを盗み、自分のものにしていきます。

3月に東日本大震災があり、福島第一原子力発電所事故の影響により、患者さんから放射線についての質問をよくされるようになりました。大学で学んでいたため、頭では分かっていた。しかし、患者さんにうまく説明できず、不安にさせてしまい、先輩方に迷惑をかけてしまいました。そのため、もう一度教科書を見て勉強し直して、今では自信を持って説明することができています。

マニュアル通りの撮影をするだけでなく、常に考え工夫し、患者さんに最適な医療を提供出来るよう頑張っていきたいです。

## 京都医療科学大学を卒業して

大阪大学医学部附属病院 渡邊 朋哉(大学1回生)



私が勤務している大阪大学医学部附属病院は、病床数1076床、職員数2122人、そのうち放射線技師53人が勤務しています。3次救命やドクターヘリなど、最先端の医療設備が整っており、放射線部門でも全てのモダリティが揃っています。大学病院の本文でもある臨床、教育、研究においても撤退した体制を整えており、若手の育成や院内勉強会、メーカー側との共同研究など、自分の頑張り次第で多くのステップを踏めます。大学病院に新卒で就職する場合、任期付き職員という雇用体系が多く、1年目からでも積極的に研究等にも取り組んでいかないと、なかなか評価してもらえないというのが現状だと思います。私は放射線治療と核医学検査に勤めています。早く評価が確立されるよう、やりがいのある日々を送っています。

私の大学時代はフットサルのサークル活動やバイトばかりに力を注いでいたので、いつも切迫詰まってから勉強をしていた思い出があります。いつも誰かと遊んだり騒いだりを繰り返してきました。

だからこそ遊びも勉強も友人達には負けたくない気持ちもありますし、お互い意識して張り合ってきました。校内試験でも国家試験対策にしても、1人で引きこもってせず、皆と意見を交わしながら勉強し、一致しないことは先生に聞きに行く。身近なライバルを見つけて競争する。そうやって背中を押し合いながら勉強してきました。とても効果ある方法の一つだったと思います。

また、卒業しても連絡を取り合える環境も学生のと時から作っていたため、卒業研究でお世話になった先生をはじめとして、今とても心強い味方がいます。勤務している病院によってやり方もそれぞれなので、同級生のみならず先輩や後輩の声に耳を傾けてみると、また違う見方も出来るかもしれません。

在学生の方へ。4年生の人は、学校生活も残り少なく、国家試験対策と就職活動に追われていると思いますが、何かを楽しめる時間も作って下さい。あまり気負いすぎると疲れるので、メリハリをつけて頑張ってください。就職が内定していない方も焦らずに、自分のやりたい事が出来る場所を見極めて、後悔のないように、自分が働く病院に誇りを持てるような場所を探して下さい。応援しています。

以上

---

\* 通巻 202 号 2012 年 1 月 10 日発行(H23-No.4)より